

東中野本通り共栄会（その1）

東中野今昔ものがたり第10回「東中野駅」（その1）で記しましたが、やはりこの地区が町として、その形態が出来たのは、中央線の開通からでしょう。明治22年4月、新宿と立川間が開通、新宿と飯田橋間も明治28年4月に開通しました。

当時は関東（武蔵）と山梨（甲州）を結ぶ線なので『甲武鉄道』と言う民間の会社でしたが明治39年の鉄道国有法により『甲武鉄道』の名はなくなりました。

また東中野駅は最初からあったのではなく「柏木停車場」としてやや大久保寄りにあったのが古図に書かれていますが大正6年1月、東中野駅となりました。東京駅は大正3年12月に開業、山手線は同14年11月に全周完成しています。

このように東京が都市としての形態が出来るにつれて、中央線の役割と言うものは、都市と地方を結ぶ大動脈の役目を与えられました。そして東京の副都心である新宿に近い東中野は生活や産業に直接、間接に関与する重要な場所に位置づけられています。その東中野の発展に寄与してきた商店街『東中野本通り共栄会』について寄稿することにしました。



東中野本通り共栄会（その2）



この図面は、昭和8年9月作成と記せられた東中野駅を基点とした当時の住宅時図です。現在のような高層ビルやマンションなど大きな建物はありませんが、住宅は相当密集して建てられていました。

東中野駅から北の方へ、真直ぐ伸びている道路が現在の「共栄会」の商店街です。図面にはそれぞれ店名がありません。踏切の角には果実店・蕎麦や、その向かいは飲食店、菓子店、薬局など大きな商店が軒を連ねていました。当時スーパードというものはありませんでしたが、市場というものが、この地図にも描かれています。

共栄会とは関係ありませんが、日本閣が当時から割烹料理屋として営業しており、そのそばに、キューピーマヨネーズの工場がありました。昭和20年5月の大空襲でこの地図に書かれている家屋の敷地を残して、全て灰燼に帰してしまいました。